



両親の留守中に大地震が、起こったときはどうするの

まず火を消し、ドアや窓を開ける

地震でグラッとゆれたら、すぐに、台所などの火を消します。電気器具のスイッチも、同時に消します。ゆれが激しくなってからでは、なかなか火を消せません。

火を消したら、すばやく、出入り口のドアを開けます。それから、机やテーブルの下にもぐりこみます。ふつう、大きなゆれは、1分間ぐらいでおさまるので、しばらくじっとして、まわりのようすを見ます。

ひなんしなければいけないときは、伝言を残しておきます。厚い紙に、油性のマジックペンで、「公園へ、ひなんしています。」などと書いて、ドアにガムテープなどで、はりつけておきます。

火事が起こって、ひなんしなければいけないときは、伝言をとりついでくれる、親せきや知り合いの人に、連絡します。

ふだんから防災会議を開いて、いろいろ決めておく

地震がいつ起こっても、家族全員があわてないで、行動できるように、月に1度ぐらい日を決めて、防災会議を開くようにします。地震が起こったときに、家族の一人一人の行動によって、地震の被害を小さくする心がけや、準備するものも決めておきます。また、両親がいなかったり、家族がばらばらなときは、どのようにして連絡がとれるかを、決めておきます。(監修・国司 真)

